

1 ケースワークのアプローチ方法に関する次の組み合わせのうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 エコロジカルアプローチ — ジャーメイン
- 2 危機介入アプローチ — トーマス
- 3 課題中心アプローチ — パールマン
- 4 解決志向アプローチ — ソロモン
- 5 心理社会的アプローチ — バーク、シェイザー

2 相談援助の展開過程におけるインテーク面接に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 インテークでは、クライアントと共に、課題解決のプロセスと結果について確認する。
- 2 インテークでは、相談に来る人の初回面談だけではなく、相談したい人のいる場所に出向いて実施する場合もある。
- 3 インテーク場面では、相談者の訴えを傾聴すると共に、的確な質問を行い、問題やニーズをおおよそ把握する。
- 4 インテークでは、社会福祉士が所属する機関・施設がその問題・ニーズの改善・解決に機能しそうでない場合、相談者にその点を説明して援助を展開する。
- 5 インテークでは、クライアントの課題について分析し、援助計画の立案を行う。

3 アセスメントにおけるマッピング技法の活用に関する記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ソシオグラムは、3世代以上の家族構成や人間関係を図式化するものである。

2 エコマップは、精神分析学の理論を基礎として構成されたマッピング技法である。

3 エコマップは、ハートマンによって考案されたマッピング技法であり、「社会関係図」などと呼ばれている。

4 マッピングの技法は、インターベンションの際にクライアントを取り巻く周囲との関係性を知る手がかりとして最も有効である。

5 ジェノグラムは、家庭内の力関係など、家庭成員間の情緒的・心理的な関係などを、記号用いて図示する方法である。

4 スーパービジョンに関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

1 自己の考え方とソーシャルワークの倫理との間で葛藤を感じているスーパーバイザーに対しては、管理的機能を発揮させたスーパービジョンが有効である。

2 上司であるスーパーバイザーが、部下であるスーパーバイザーの能力等について考慮し、担当件数を増減したり配置転換するなどするのは、スーパービジョンの私事的機能と言える。

3 スーパーバイザーがスーパービジョンを行う場合、スーパーバイザーが管理上の責任を負うことはない。

4 スーパービジョンは、職能団体や職場外での契約関係で実施される場合もある。

5 スーパービジョンには、対価としての報酬が発生することはない。

5 アウトリーチに関する次の記述のうち、適切なものを 2 つ選びなさい。

1 アウトリーチは、サービスを必要とするクライアントの発見のための手法であり、情報提供やサービス提供の段階で使われることはない。

2 クライアントが、サービスの利用について難色を示している場合、クライアントの意思なので、あくまでも自己決定を尊重し、積極的な働きかけをしないことが重要である。

3 精神障害者に対するアウトリーチは、未治療や治療中断している精神障害者等に、保健師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士等の多職種から構成されるアウトリーチチームが、一定期間、アウトリーチ支援を行うことにより、新たな入院および再入院を防ぎ、地域生活が維持できるように支援するものである。

4 事前組織協会(COS)の活動がソーシャルワークにおけるアウトリーチの始まりであるとされている。

5 アウトリーチは援助開始時に行うことが重要であり、展開過程途中では行わない。

6 グループワークの開始期における社会福祉士の役割に関する次の記述のうち、適切なものを 1 つ選びなさい。

1 課題解決に向けた働きかけを行う。

2 メンバーのニーズを把握して計画を立てる。

3 グループ目標の達成度をメンバーと評価する。

4 メンバーとグループ内のルール等を決める。

5 個々のメンバーと波長合わせを行う。

7 介護保険法上の居宅サービスにおける担当者会議について、最も適切なものを1つ選びなさい。

1 居宅サービスにおける担当者会議は、原則として主治医の主宰により開催する。

2 担当者会議は、専門職間の情報の共有が目的であるので、利用者や家族が会議に参加し意見を述べることはない。

3 居宅サービス計画の作成にあたっては、利用者の日常生活全般を支援する観点から、介護給付等対象サービス以外の保健医療サービス、福祉サービス、そして、地域住民の自発的な活動によるサービス等の利用を含めて計画に位置付けるように努めなければならない。

4 利用者もしくは家族の個人情報を用いる場合、同意を得ることができると予想できる場合には、利用者もしくは家族の同意を得なくともよい。

5 サービス内容についての正しい見解を共有することが大切なので、職員間の意見が分かれた場合は、多数決により決定することが適切である。

8 相談援助の記録に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

1 説明体による記録では、実践の説明責任を示す根拠ともなるよう、事実の経過と共に、面接のやりとりを発話どおりに文字化する。

2 記録をとる場合、誰が読んでもわかるように専門用語は使用しないで記述する。

3 記録はクライアントに開示される可能性を考え、本人に不利益な情報は記載しない。

4 記録は文字情報として残されるので、記号や図式は使用しないで作成する。

5 過程叙述体による記述では、ソーシャルワーカーとクライアントとの相互作用を詳細に記載する。

9 相談援助における情報通信技術(ICT)の活用に関する次の記述のうち適切なものを1つ選びなさい。

1 新型コロナウイルス蔓延の影響により、ICTの導入等が進んだ。

2 情報通信技術の普及は、多くの福祉分野にも導入されてきているが、障害者分野における就労支援ではまだ導入されておらず、今後の課題となっている。

3 日本社会福祉士会の社会福祉士の行動規範においては、利用者情報の電子媒体等の管理について、厳重な管理体制と最新のセキュリティへの配慮についての規定はない。

4 介護保険法には介護サービス情報の公表に関する規定があり、市町村長または指定情報公表センターが介護サービス情報を公表するとされている。

5 ICT導入のデメリットの1つとしてコストの課題があるが、導入に関して助成金などはない。

10 相談援助におけるアセスメントに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

1 アセスメントとは、要介護者のもつ個別・具体的な生活課題を明らかにすることであり、サービス計画作成の後に行われる。

2 アセスメントにより収集した情報は、問題解決との関連性を考えて、組織化することが重要である。

3 情報収集は、クライアントとその家族のみに行う。

4 アセスメントの対象は身体的機能のみでなく精神状態も含むが、社会環境は含まない。

5 アセスメントは、課題分析表を使用して1回で終了させなければならない。

11 ソーシャルワークにおける援助関係に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

1 援助関係における選考感情とは、援助者とクライアントとの間に生まれる相互信頼の関係のことであり、両者の間の対等性、公平性が前提になる。

2 エンゲージメントとは、相談者と援助者が目標の達成に向けて契約を結ぶことである。

3 パターナリズムとは、援助者の権威的な立場を否定し、対等な立場を重視した援助関係のあり方のことである。

4 援助者が、過去に出会った人物に対する感情や態度を利用者に向けることを、転移と言う。

5 アンビバレンスとは、肯定的感情と否定的感情など同一対象に相反する感情が同時に存在しないことを言う。

12 自助グループに関する次の記述のうち、より適切なものを2つ選びなさい。

1 自助グループは、グループの構成員の力によって結成されるので、専門職や専門機関の援助受けることはない。

2 自助グループにおいては、ヘルパー・セラピー原則が成り立つ。

3 自助グループの特質は、同様おの生活課題をもつ人が集まり相互に助け合うところであり、ソーシャルアクションに発展することはない。

4 自助グループは、当事者性が重視されるので、家族のみのグループは自助グループではない。

5 自助グループの活動は、メンバーによって行われ、多くの場合、専門家(ソーシャルワーカーなど)は運営の主要な事柄には関与しない。

13 相談援助におけるモニタリングに関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

1 モニタリングでは、支援の実施状況をできるだけ客観的に把握するために、クライアントの主観的な言動は評価に含めないようにする。

2 モニタリングは、クライアントについての継続的なアセスメントも含む。

3 モニタリングは、支援計画が適切に実施されたかどうかを確認するものであるので、支援終了後に実施する。

4 モニタリングにおいては、初めに設定した目標が達成されたかどうかを確認するものであるので、心身状況や環境が変化しても、目標を変更することはない。

5 モニタリングにおいては、援助目標が達成され、クライアントの生活に改善がみられるかを確認する。

14 相談援助の展開過程における介入(インターベンション)に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1 介入は、クライアントシステムと環境の相互作用に変化を引き起こすように働きかける。

2 介入は、クライアントへの働きかけを優先し、エンパワメントすることで有用な社会資源を活用できるようにする。

3 介入は、環境への働きかけを優先し、クライアントに応答的に対応できるようにする。

4 介入において、援助者は専門的知識と技術により、クライアントの課題をソーシャルワーカーが主体となって解決をすすめる。

5 クライアントを権利擁護するアドボカシー活動は介入の機能は含まれない。

15 事例を読んで、A職員が介入したレベルについて、適切なものを1つ選びなさい。

【事例】 社会福祉協議会に勤務するA職員(社会福祉士)は、地域で生活する方々を支える業務を中心に活動をしている。担当するBさん(男性、60歳、独居)より地域美化が街の活性化になるのではないかと、自らボランティア活動をしたい、という希望が出された。そこでA職員は、所属する部署の上司と相談し、社会福祉協議会および関係各所に要請を出すと共に、関係部署と交渉した。その結果、地域でのボランティア活動開始への取り組みについての上承を得ることができ、実際に活動を市民の人と開始することにつながった。

- 1 サブレベル
- 2 マクロレベル
- 3 ミクロレベル
- 4 エクスレベル
- 5 メゾレベル

16 事例を読んで、A社会福祉士のCさんに対する対応について、より適切なものを2つ選びなさい。

【事例】 A社会福祉士は、放課後等デイサービスの職員である。このところ、放課後等デイサービスの利用者であるB君(軽度の知的障害あり)の母親であるCさんから、毎日のように電話がかかってくる。いったん電話をとると1時間以上、話



をやめてくれないが、さほどの用事ではない。

- 1 「当事業所は、お母さんの相談を受ける場所ではありませんので、電話をするのはやめてください」と C さんに伝えた。
- 2 C さんの行動の意味を知るために、B 君を迎えに来た時に一度話をしてみることにした。
- 3 「業務妨害にあたるので警察に通報します」と C さんに伝えた。
- 4 児童相談所に現状を説明し、助言を依頼した。
- 5 お母さんの様子を B 君に聞いてみた。

17 スーパービジョンに関する次の記述のうち、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

- 1 スーパーバイザーは、スーパーバイザーと同じ職場で勤務する上司や教育担当者でなければならない。
- 2 スーパービジョンにおいて、スーパーバイザーの職務上の心の揺らぎなどに対してサポートを行うのは、教育的機能である。
- 3 自分が行った援助や業務を、スーパーバイザーの指導のもと、確認・点検するスーパービジョンをセルフ・スーパービジョンと言う。
- 4 社会福祉学以外の特定の領域に関する知識や技術について、その領域の専門職から助言指導を受けることを、個人スーパービジョンと言う。
- 5 複数のスーパーバイザーが 1 人のスーパーバイザーから受けるスーパービジョンを、グループスーパービジョンと言う。